

資料番号	9
------	---

令和6年4月19日
課名 環境県民局環境保全課
担当者 課長 秋山
内線 2916
課名 農林水産局水産課
担当者 課長 横内
内線 3609

瀬戸内オーシャンズXの協定期間延長等について

1 趣旨・目的

瀬戸内4県（広島県・岡山県・香川県・愛媛県）と公益財団法人日本財団（以下、「日本財団」）が共同で推進している海ごみ対策プロジェクト「瀬戸内オーシャンズX」について、4月15日（月）に開催された4県知事及び日本財団会長による会議において、協定期間の延長及び今後の取組方針等を決定した。



会議の様子



協定期間延長等の覚書への署名

2 現状・背景

- 瀬戸内オーシャンズXは、瀬戸内4県（広島県・岡山県・香川県・愛媛県）と日本財団が令和2年12月に連携協定を締結し、令和7年3月までの約5年間、日本財団から計15億円の助成を受け、①調査研究、②企業・地域連携、③啓発・教育・行動、④政策形成の4つの柱で事業を展開している。
- 本県においては、これまでに、日本財団の支援により、離島海岸等の立入困難エリアにおいて、発泡スチロール製フロートやカキパイプ等の回収・処理を行ったほか、5億円規模の「瀬戸内海洋ごみ削減行動促進支援基金」（以下、「基金事業」）を活用した取組などを行っている（※本県の取組状況については、別紙のとおり）。

3 概要

(1) 協定期間延長について

- ・当初期間：令和2年12月～令和7年3月末
- ・延長期間：～令和10年3月末（3年間の延長）

(2) 延長期間における主な取組

海岸漂着量が多い立入困難エリア等での清掃活動に加え、かき養殖資材の発生抑制及び流出防止対策に取り組む。

瀬戸内オーシャンズXにおける本県での取組状況（※主なもの）

	実施時期	主な取組内容（概略）	参考
調査事業	R3. 10	■河川流域ごみ調査結果公表（本県にて記者発表） 瀬戸内4県280の河川、約1,200kmの流域を一斉調査	①
	R4. 7～R5. 3	■市街地でのごみ散乱状況調査 雨水排水形態や地形情報によりプラスチックごみの流出のしやすさを地図上で可視化	—
	R5. 10～R6. 3	■道路でのごみ散乱状況やドライバー等によるポイ捨ての実態把握、啓発・情報発信	—
清掃・回収	R4. 11. 7	■大竹市・阿多田島長浦海岸での大規模清掃活動 ※日本財団笹川会長・海野常務理事、湯崎知事参加	②
	R5. 3. 15	■江田島市・大奈佐美島（無人島）での清掃活動 ※基金事業（NPO法人SARENとの連携事業）	—
	R5. 10～	■釣り人をターゲットとした海ごみ回収促進事業 ※基金事業（㈱フィッシュフレンズとの連携事業、R5. 11 深川社長ら関係者知事表敬）	—
企業連携	R3. 10～	■セブン-イレブン県内120店舗へのPETボトル自動回収機の設置 ※R3. 10 設置セレモニーに知事、日本財団海野常務ら関係者出席	③
	R5. 4. 18～8	■サッポロ生ビール黒ラベル「瀬戸内海環境保全応援缶」の展開 ※R5. 4 サッポロビール野瀬社長ら関係者知事表敬	④
フロート関係	R5. 3～	■発泡フロートの破砕防止に向けた被膜塗装に係る実証 発泡スチロール製フロートにポリウレア樹脂を塗布し、耐久性を強化するとともにマイクロプラ化を防ぐ ※基金事業（広島市漁業協同組合との連携事業）	⑤
	R6. 1～	■発泡フロートの燃料素材としてのリサイクル活用の検討、実施 ※基金事業（県漁連との連携事業）	—

【①河川流域ごみ調査】



可視化されたホットスポット
（ごみが集中的に発生・溜まっている箇所）

【②阿多田島での大規模清掃活動】



阿多田島での回収作業の様子
（日本財団笹川会長、湯崎知事）

【③ペットボトル自動回収機】



設置セレモニーの様子

【④サッポロ生ビール黒ラベル「瀬戸内海環境保全応援缶」】



パッケージイメージ

【⑤フロートの破砕防止に係る被膜塗装】



ポリウレア樹脂をコーティングしたフロート